

2018年8月4日
千葉県臨床検査技師会
病理検査細胞診検査研究班合同研修会

ROSE (迅速細胞診) の需要と課題

千葉大学病院内視鏡センター
三枝文恵



ROSE

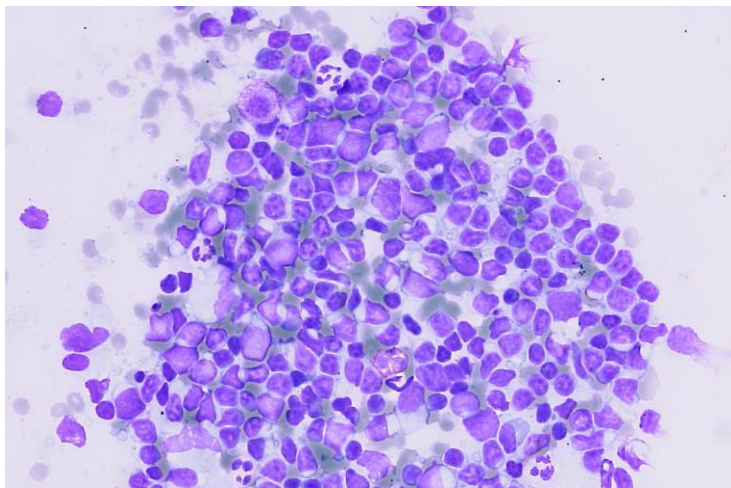
Rapid on site cytologic evaluation

迅速細胞診

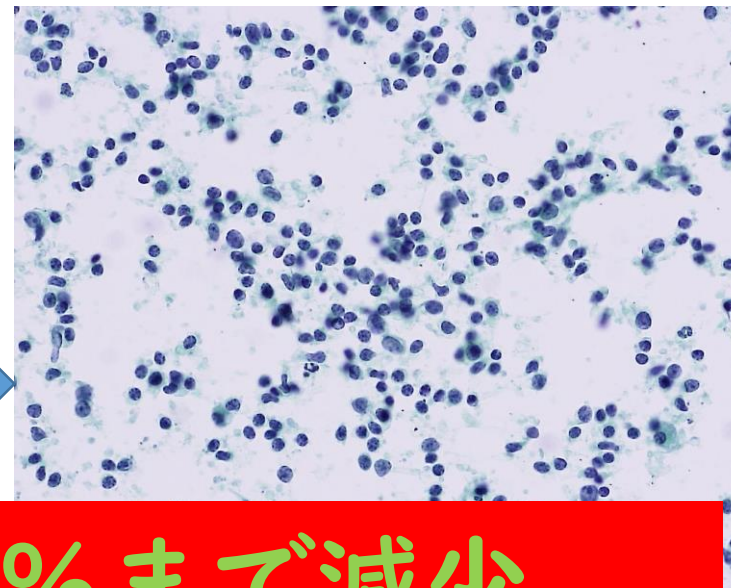
検査室で検査中にベッドサイドで行う細胞診検査

その後の検査や治療方針を仮決定する参考情報

ディフクイック染色

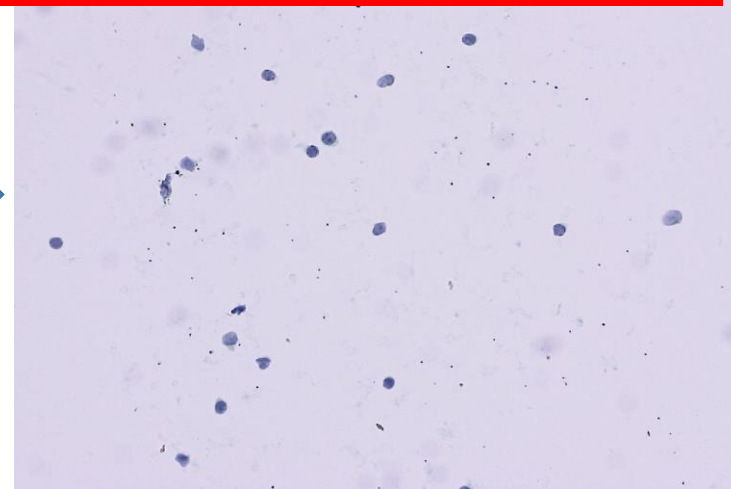
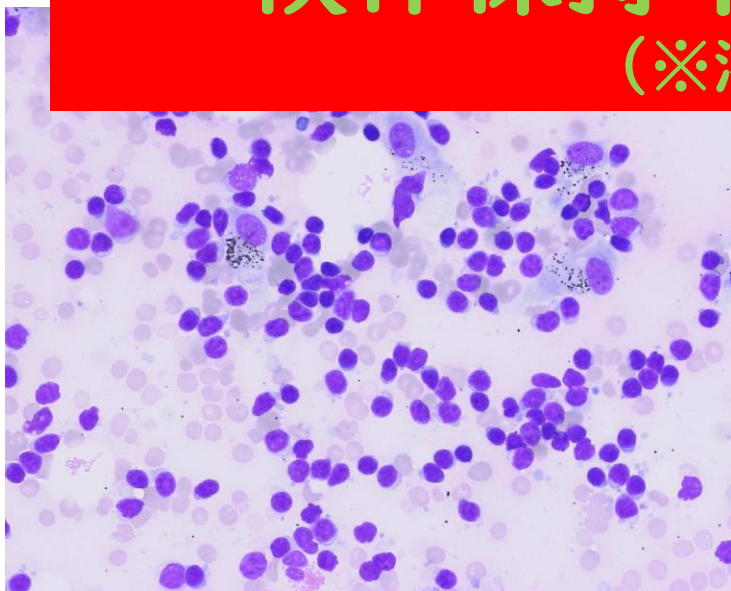


パパニコロウ染色

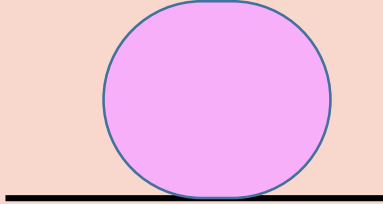


検体保持率は30%まで減少

(※液状検体において)

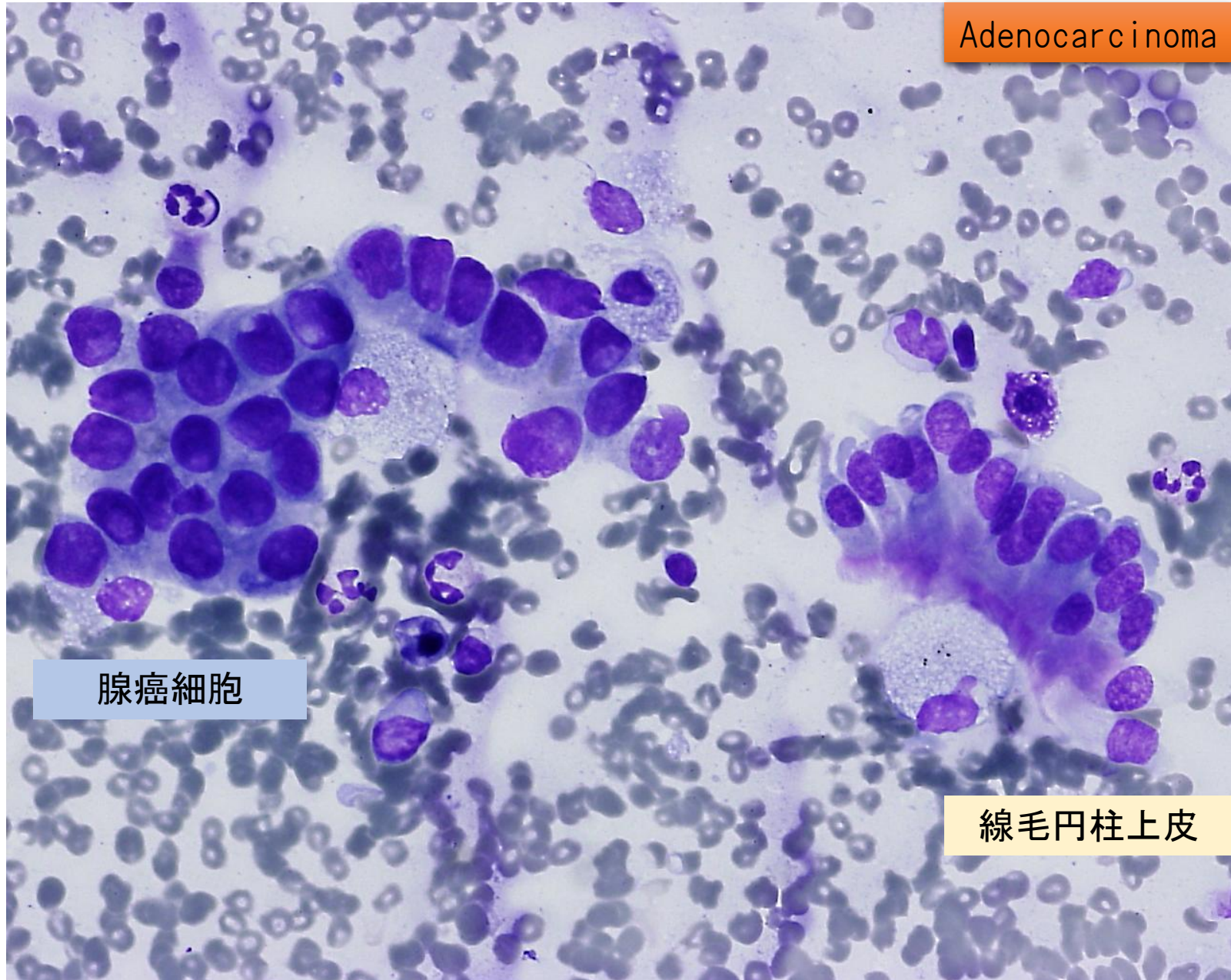


染色方法の特徴

染色	Diff-Quik染色	パパニコロウ染色
固定法	乾燥固定 	湿固定 
染色時間	短い（数十秒）	長い（数分）
特徴	細胞の剥離がない 細胞が大きく見える 厚みのある標本は不適	細胞が剥離しやすい 多彩な色彩 立体構造の観察が可能

ROSE導入により
必要な検体の質
必要な検体の量
確実に採る検査にする

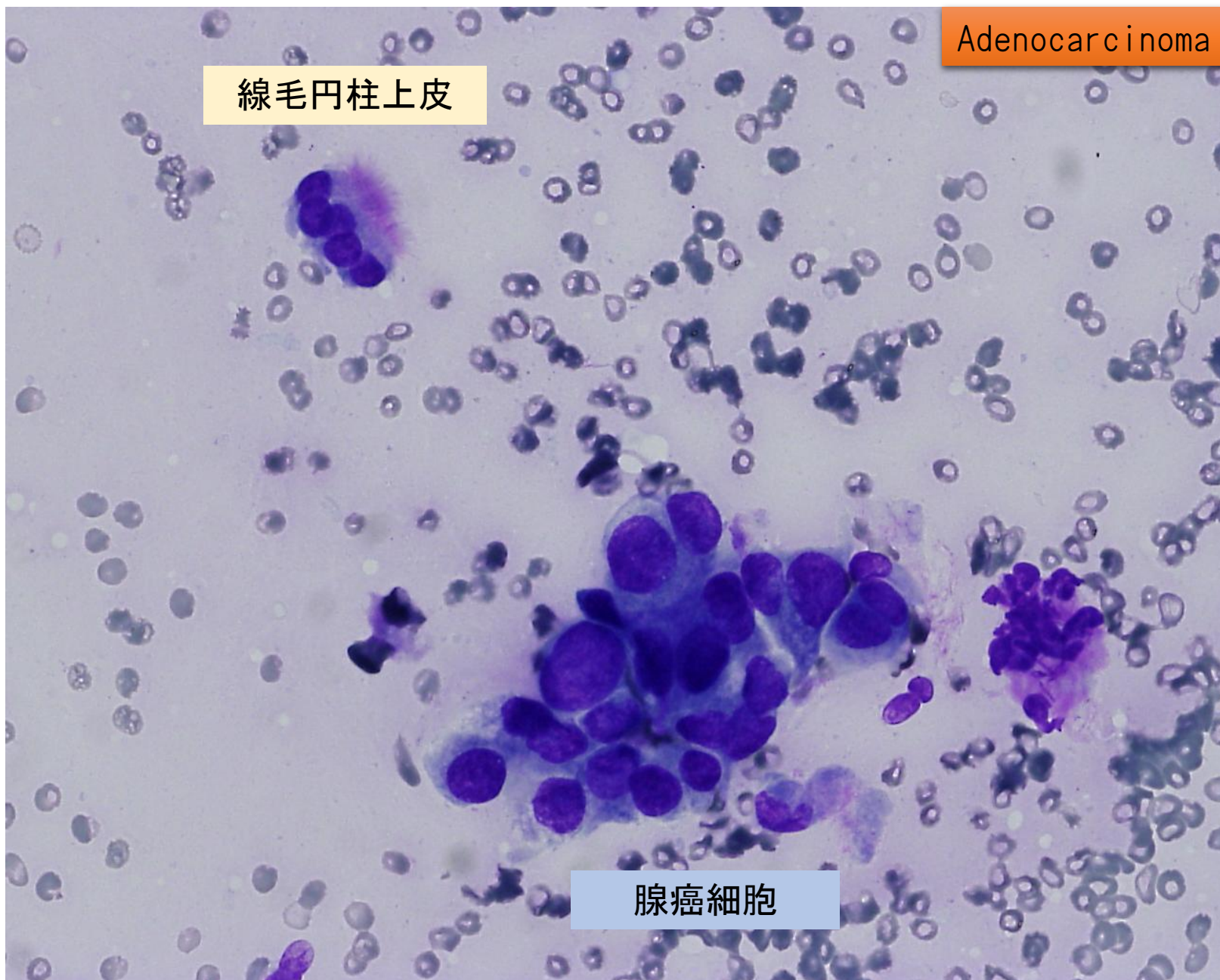




Adenocarcinoma

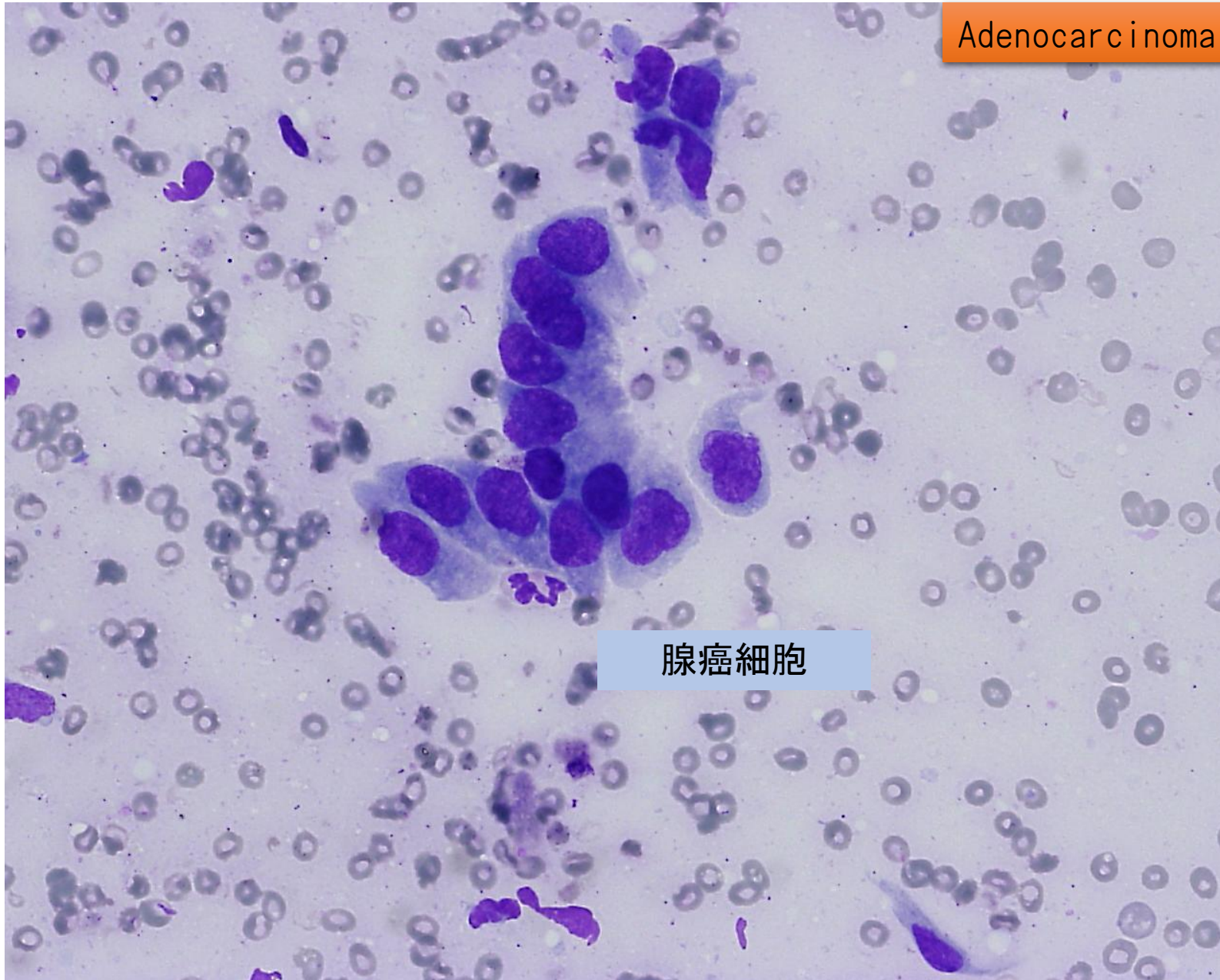
腺癌細胞

線毛円柱上皮

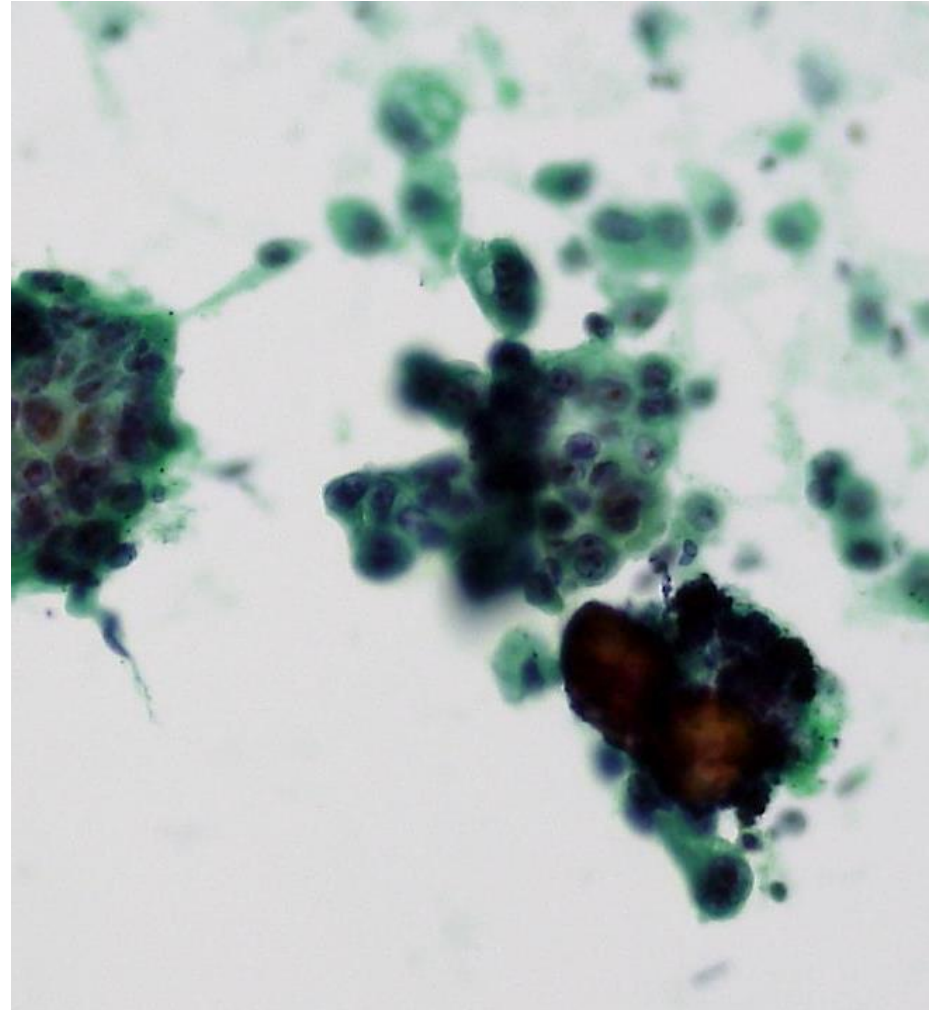
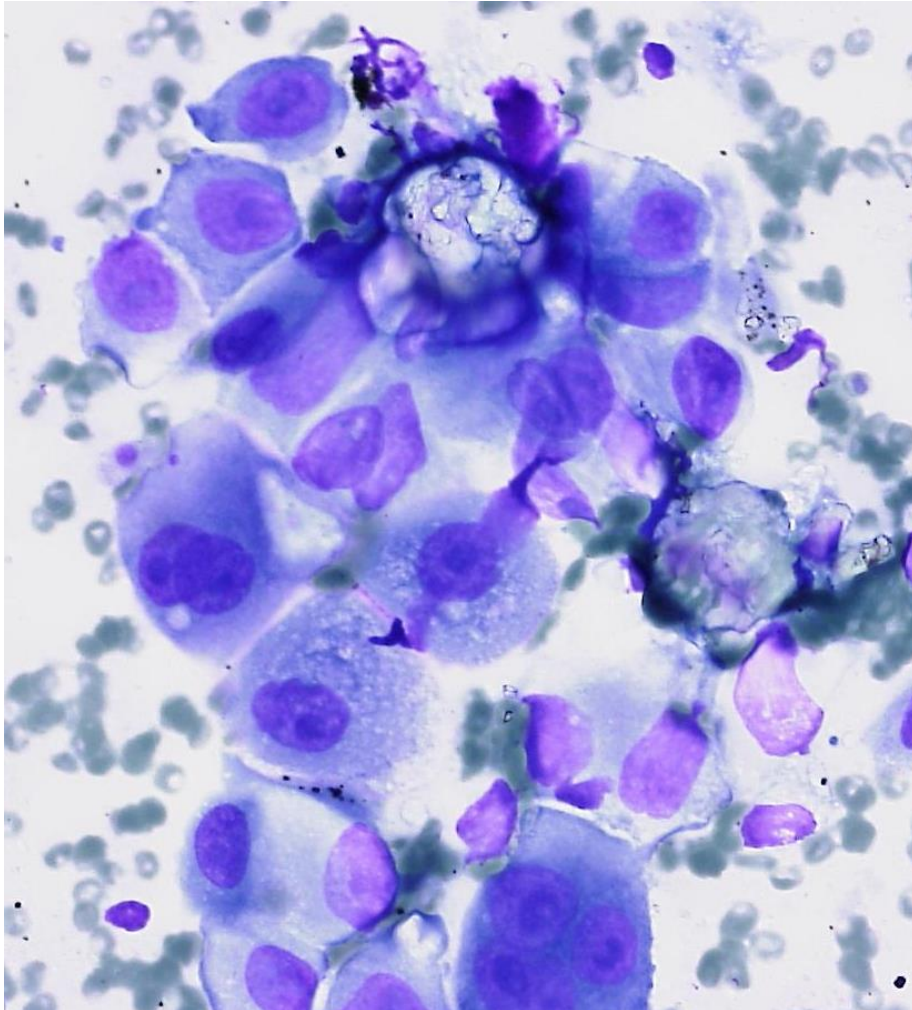


Adenocarcinoma

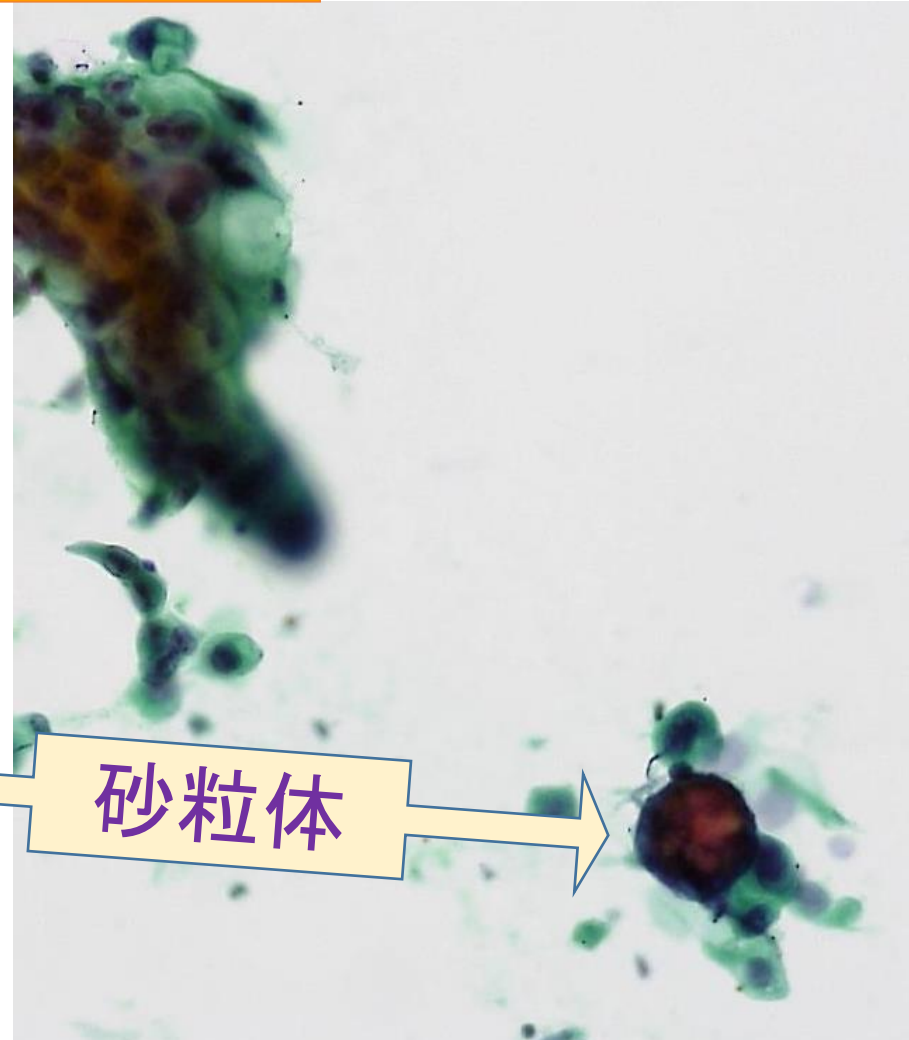
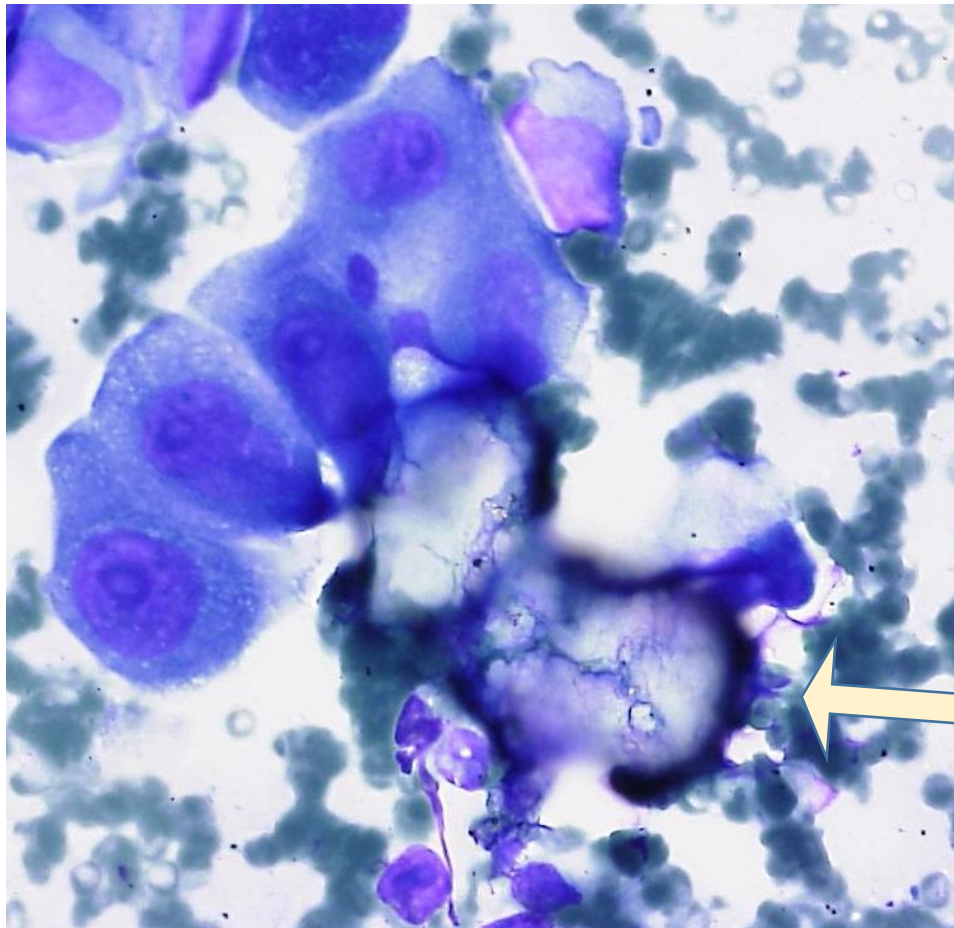
腺癌細胞



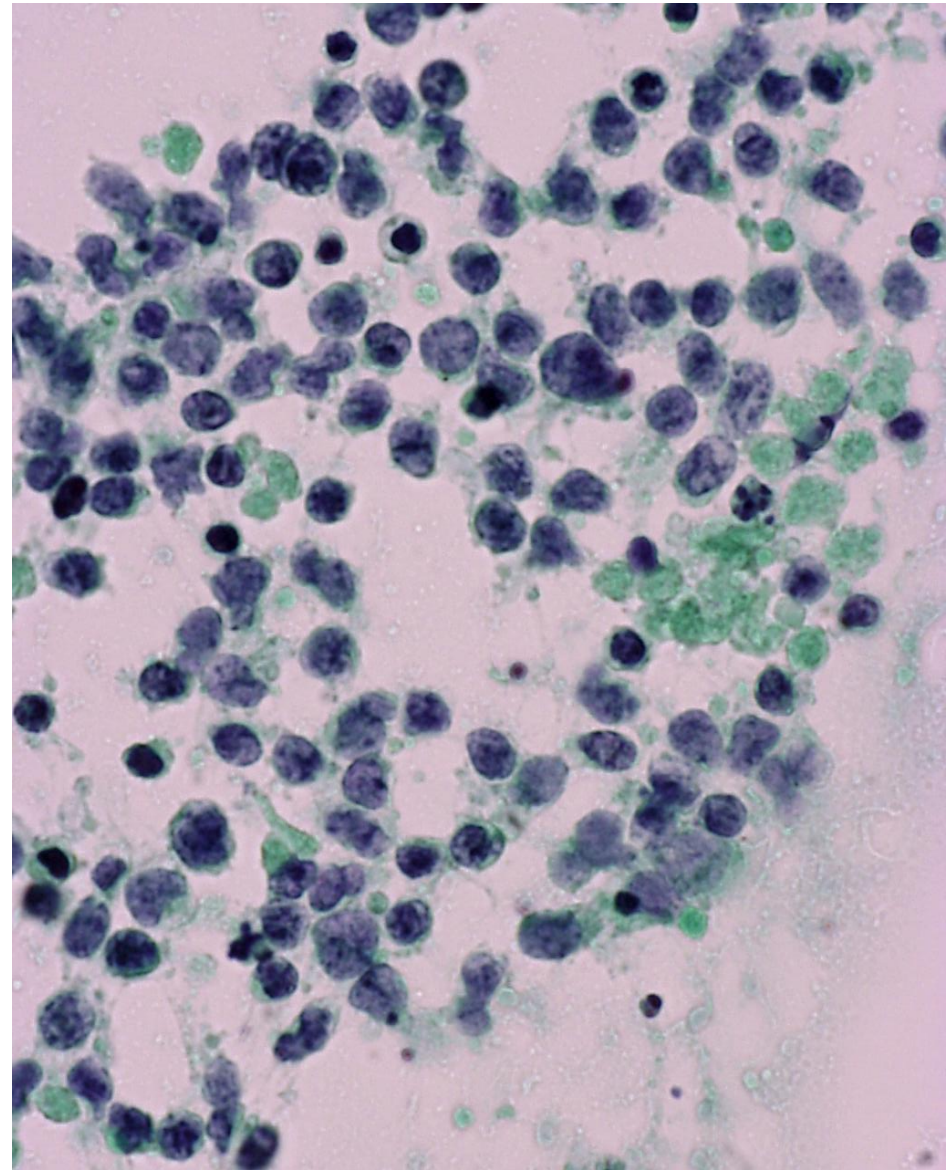
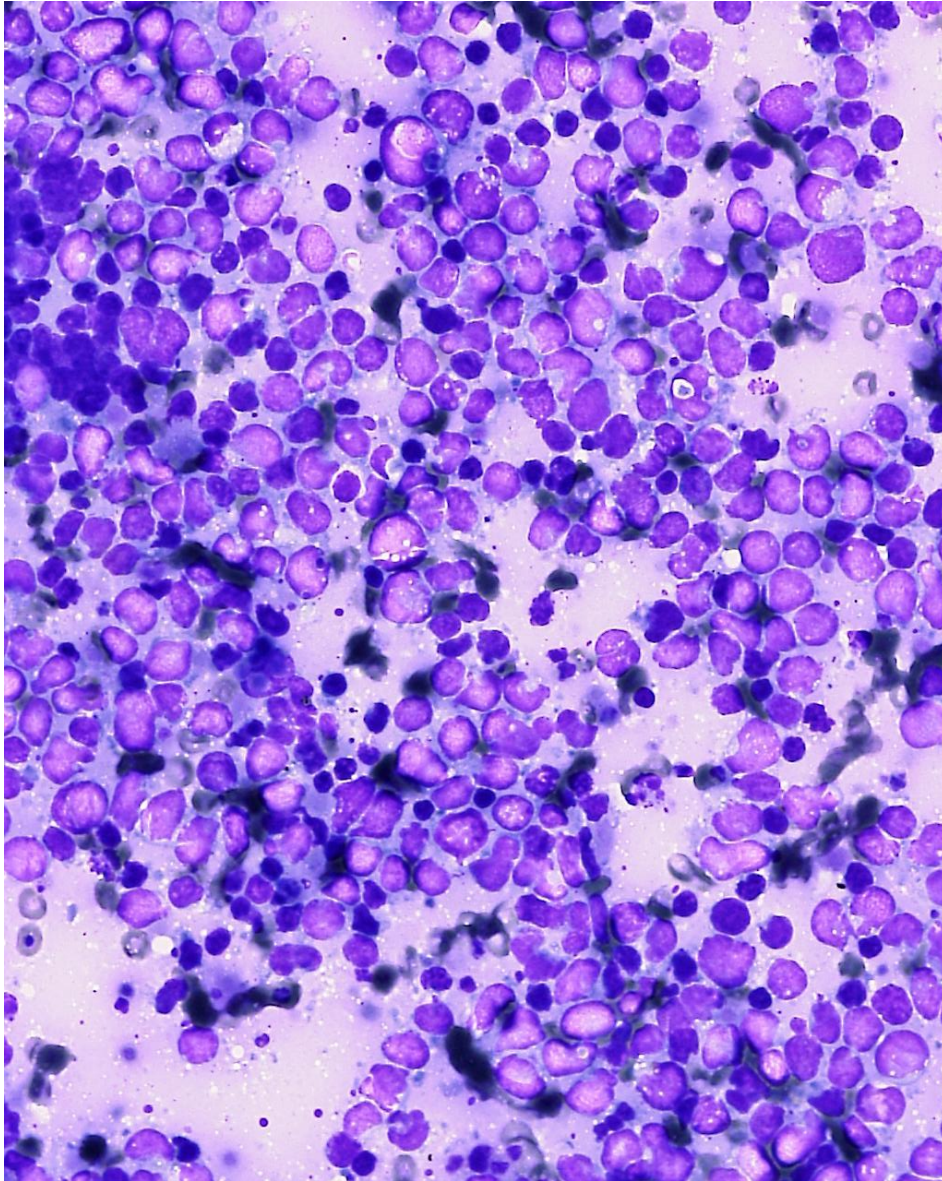
Adenocarcinoma



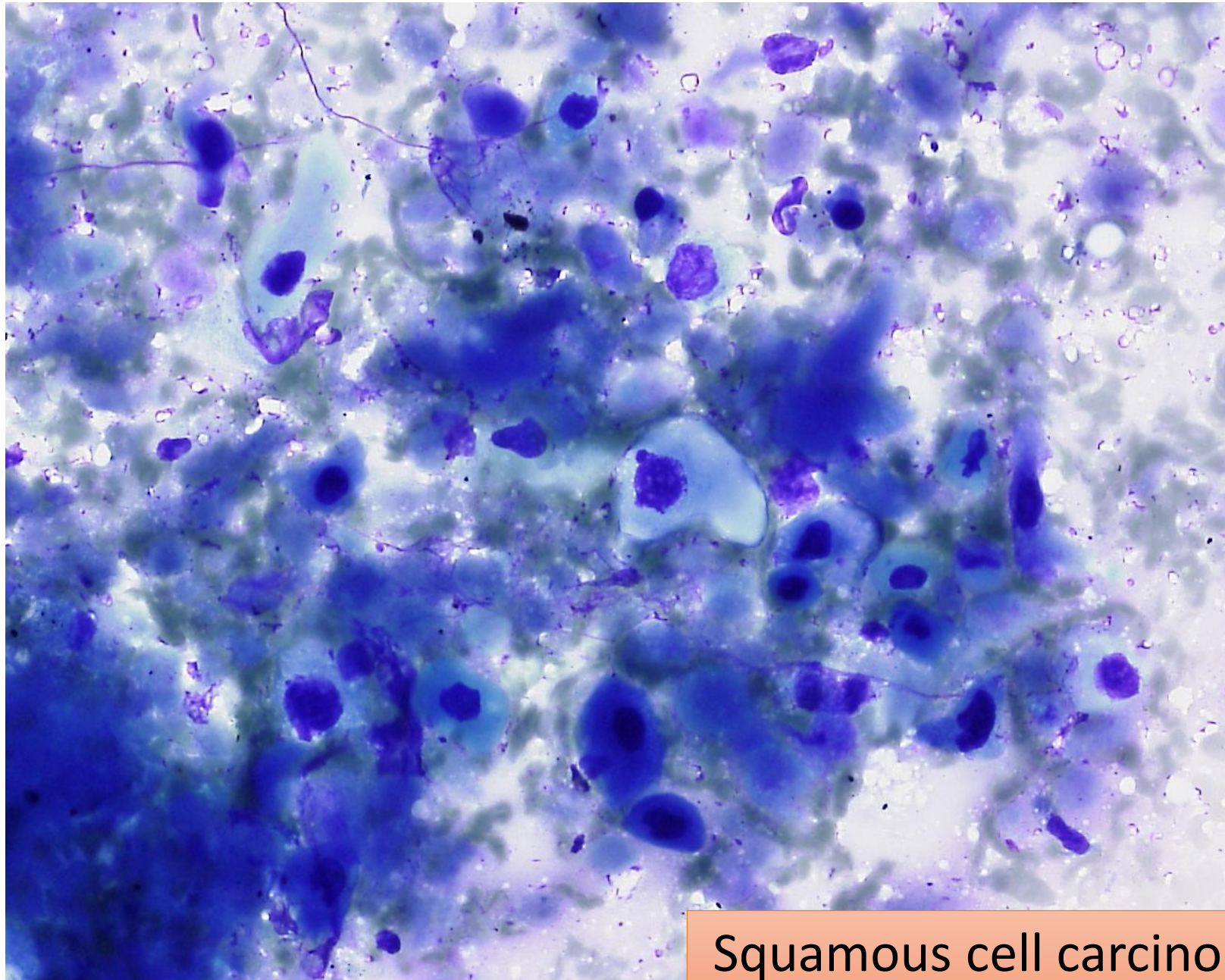
Adenocarcinoma



砂粒体

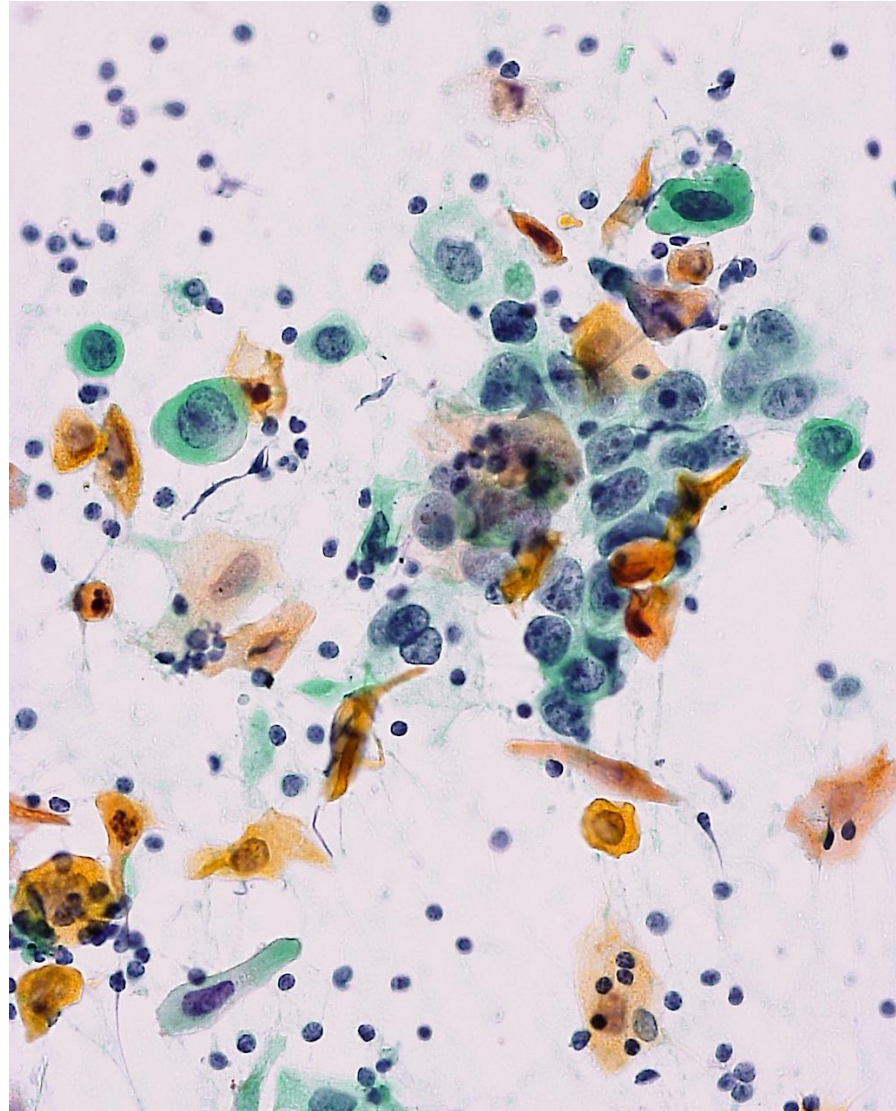
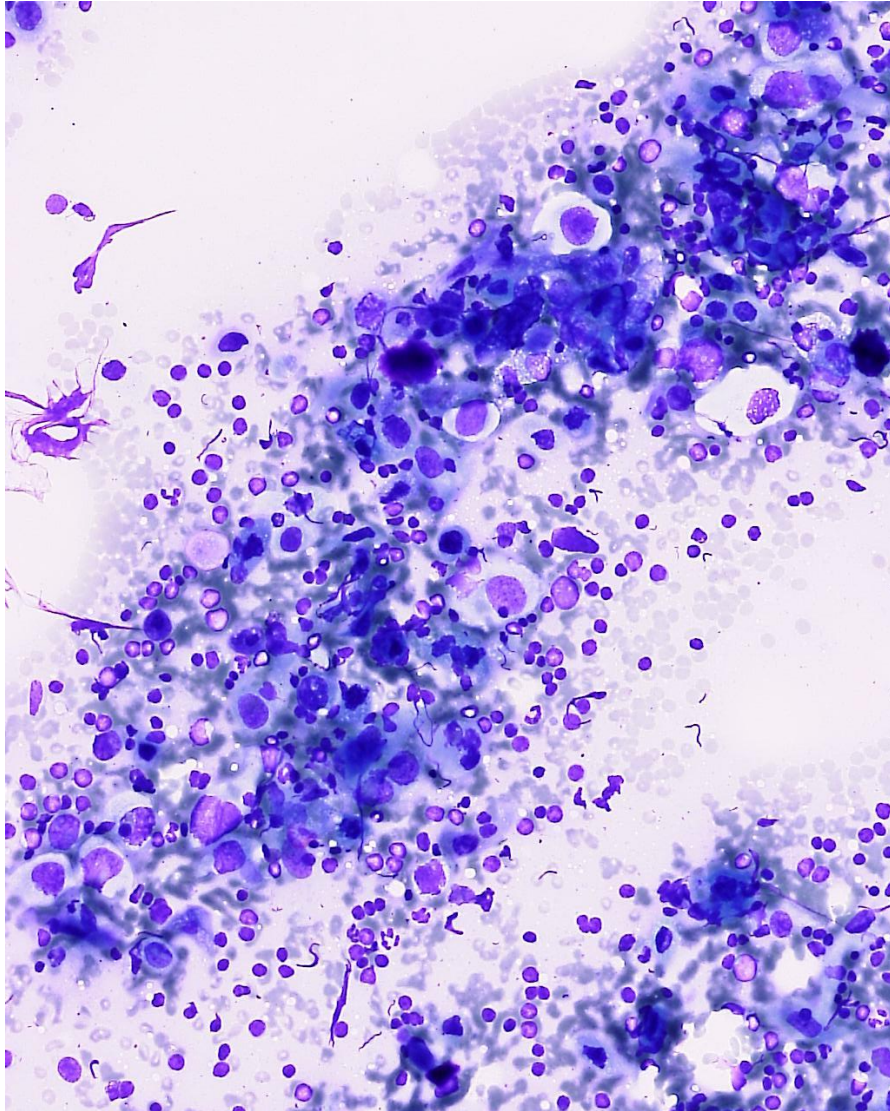


Small cell carcinoma

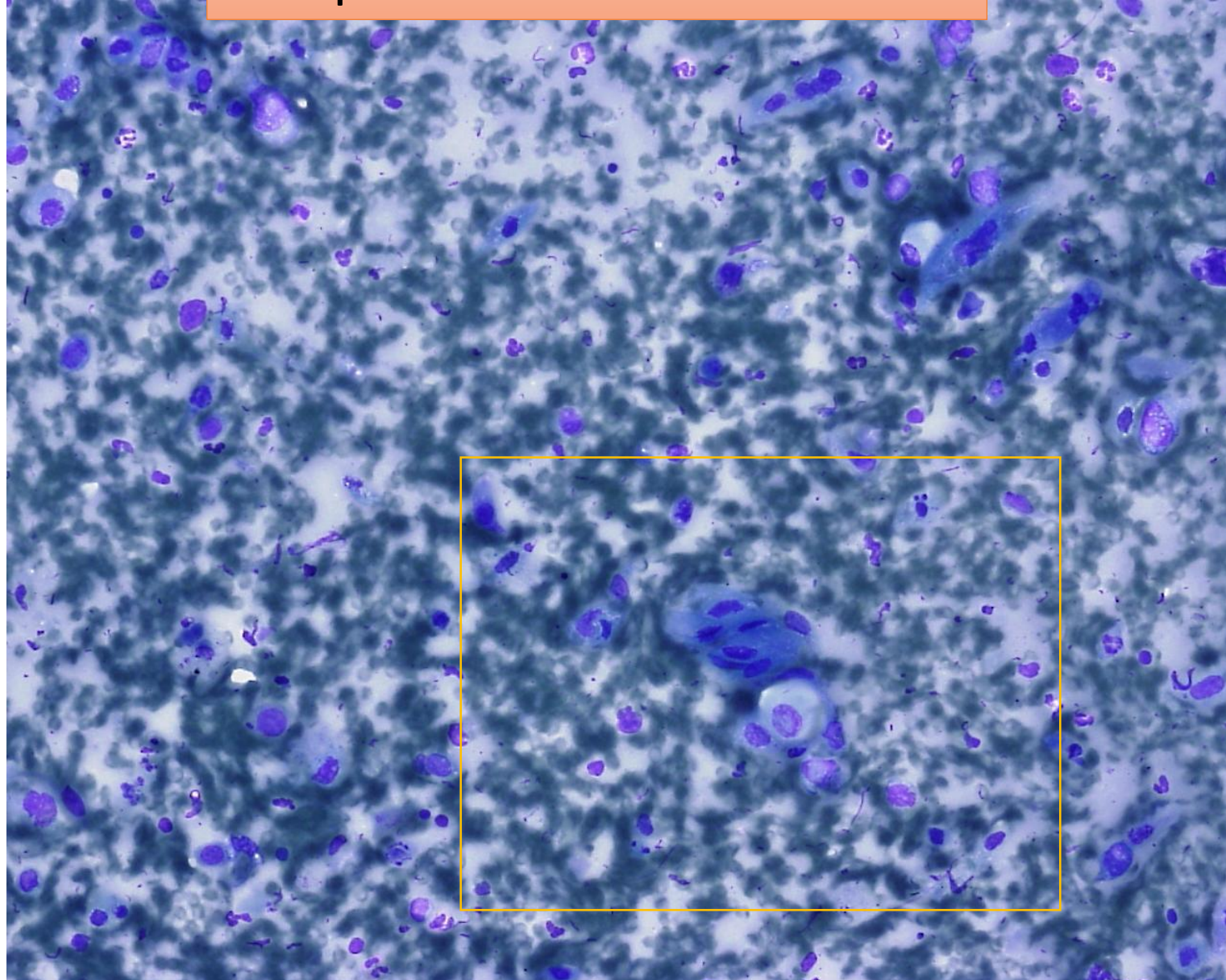


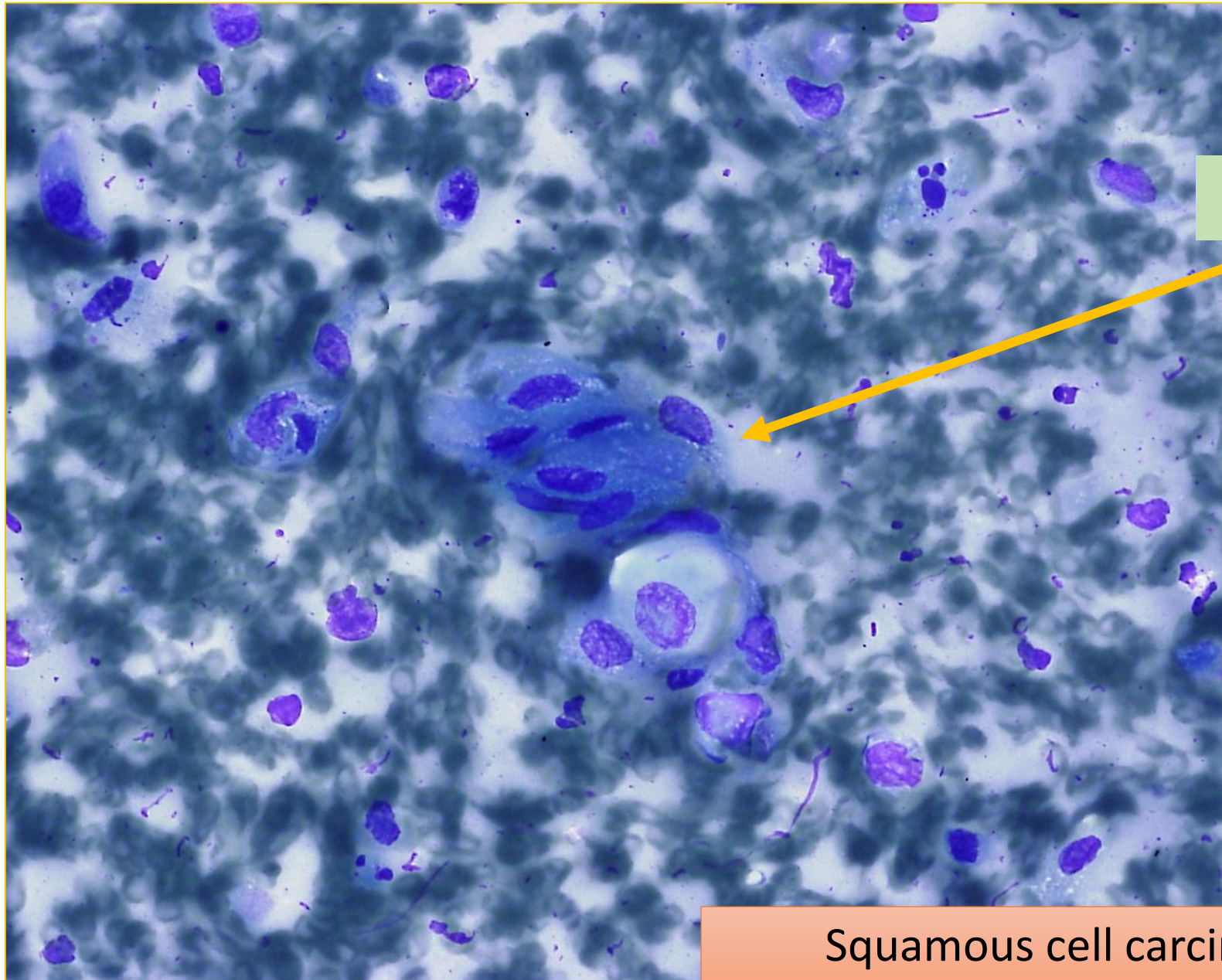
Squamous cell carcinoma

Squamous cell carcinoma



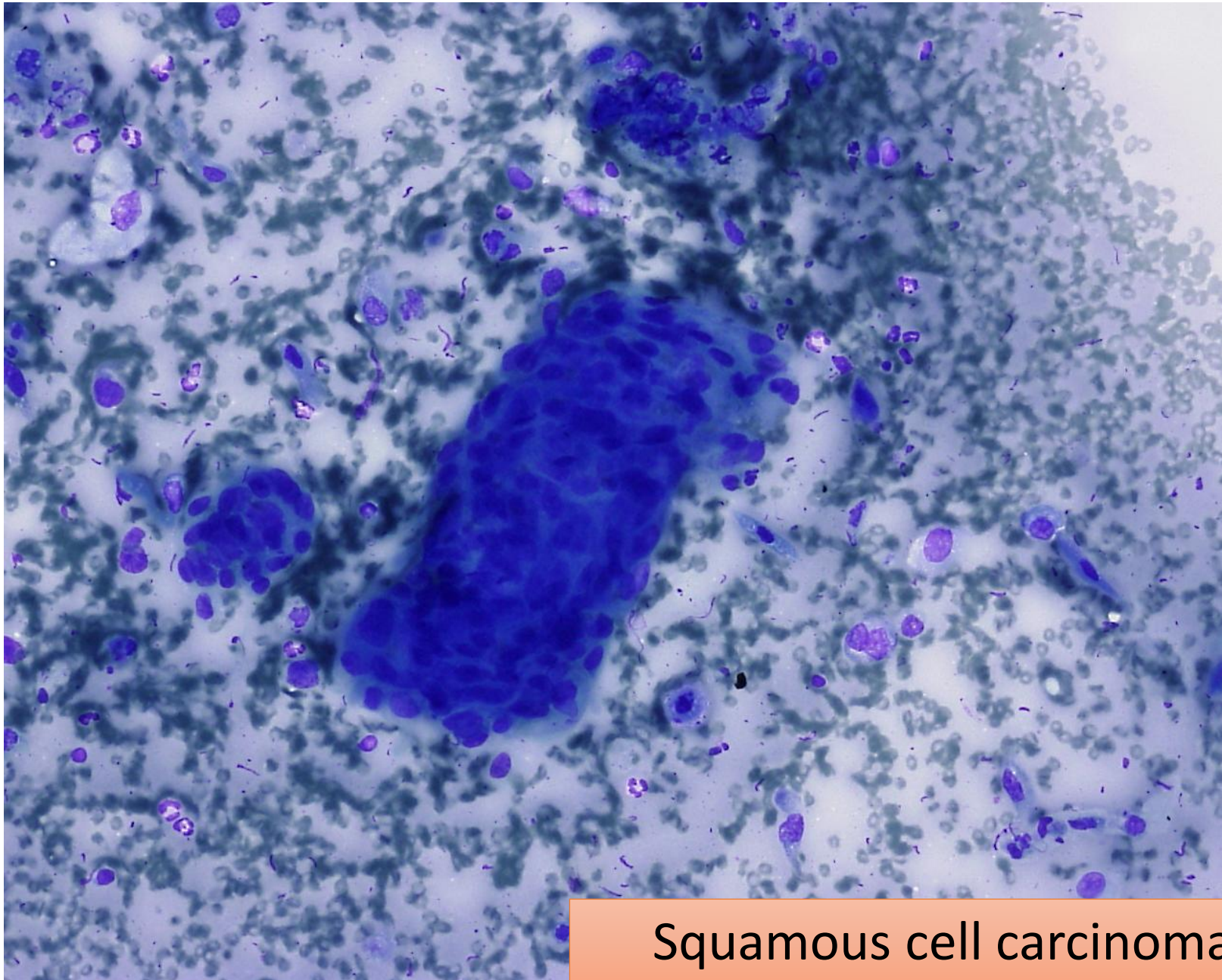
Squamous cell carcinoma





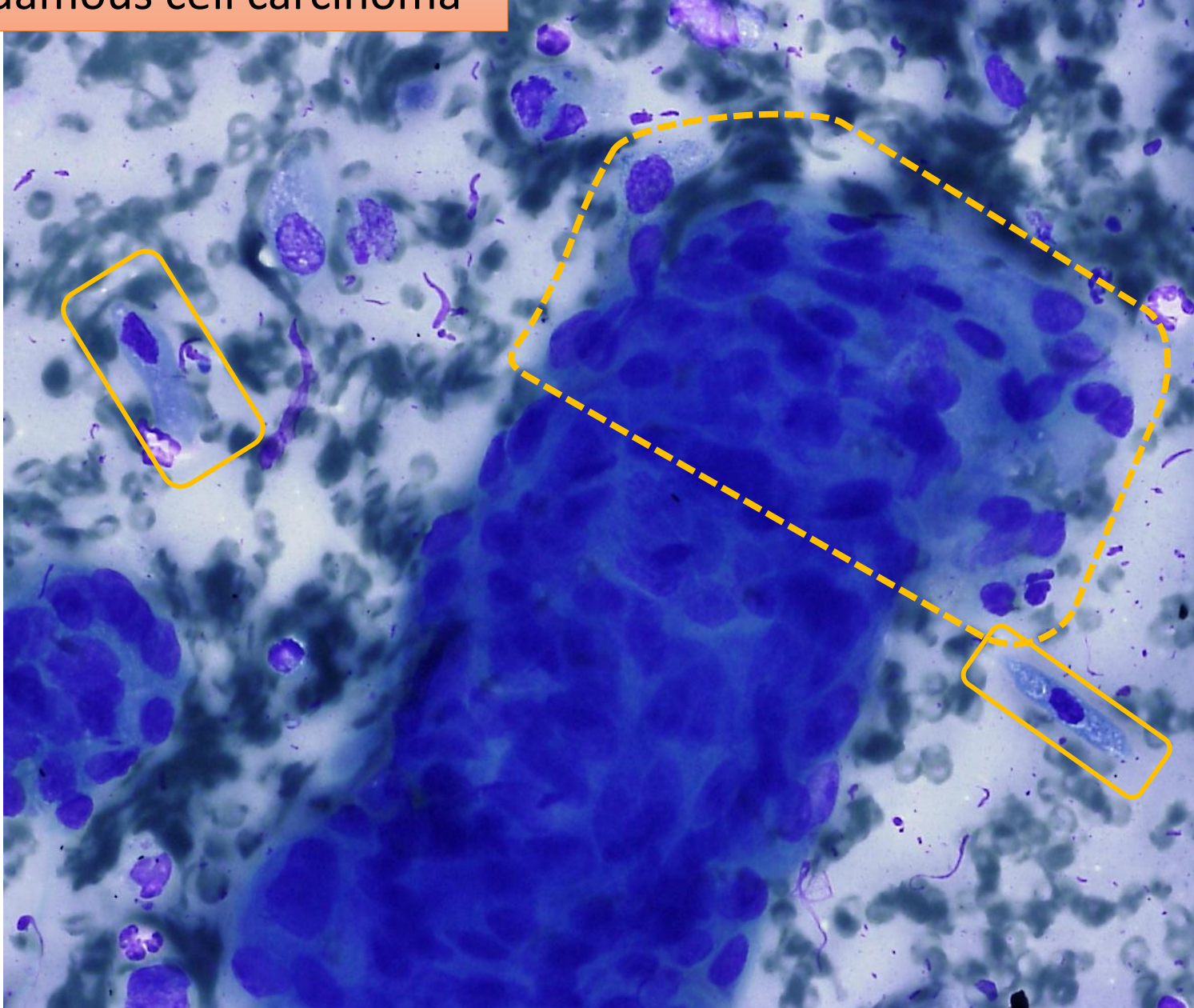
層狀構造

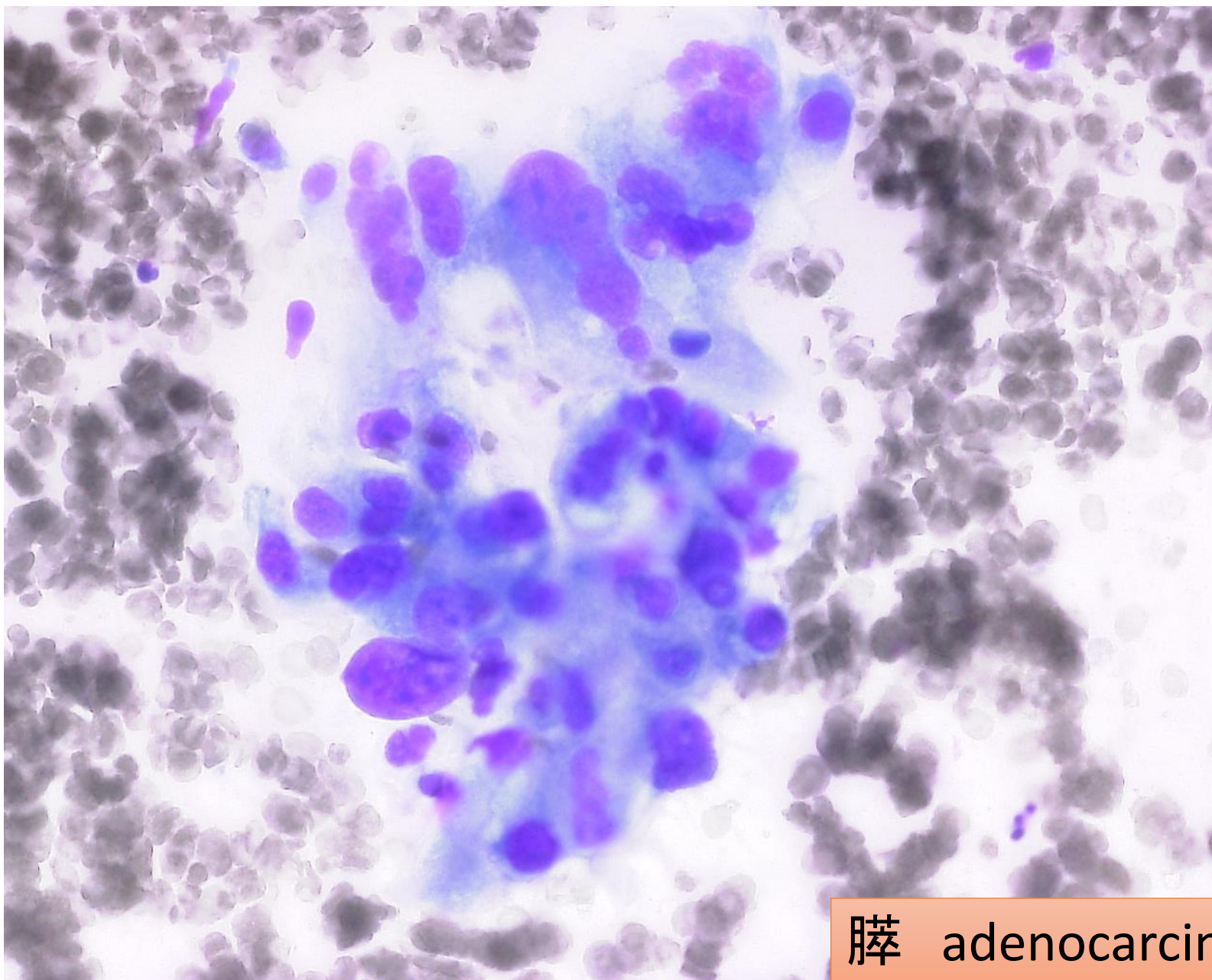
Squamous cell carcinoma



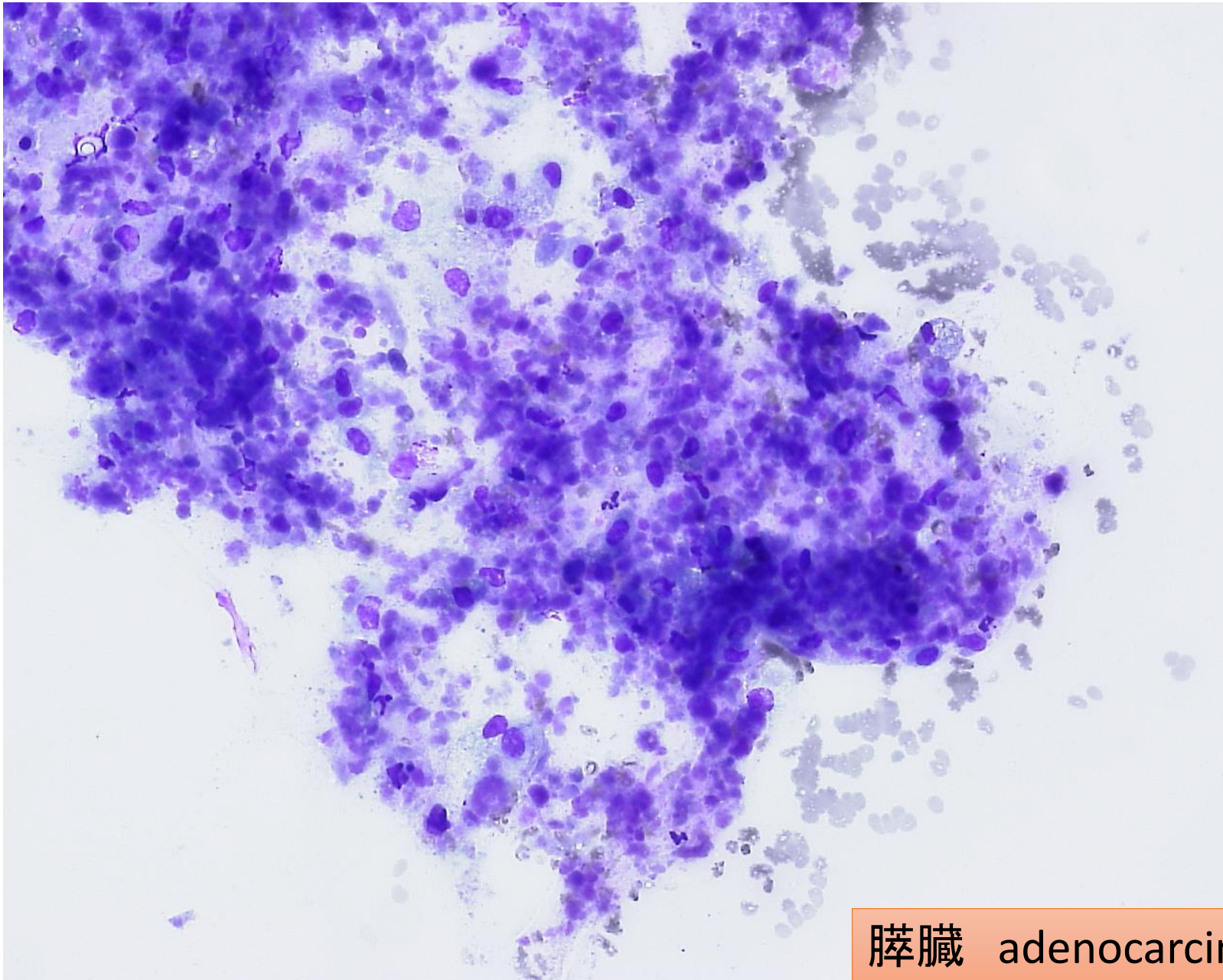
Squamous cell carcinoma

Squamous cell carcinoma

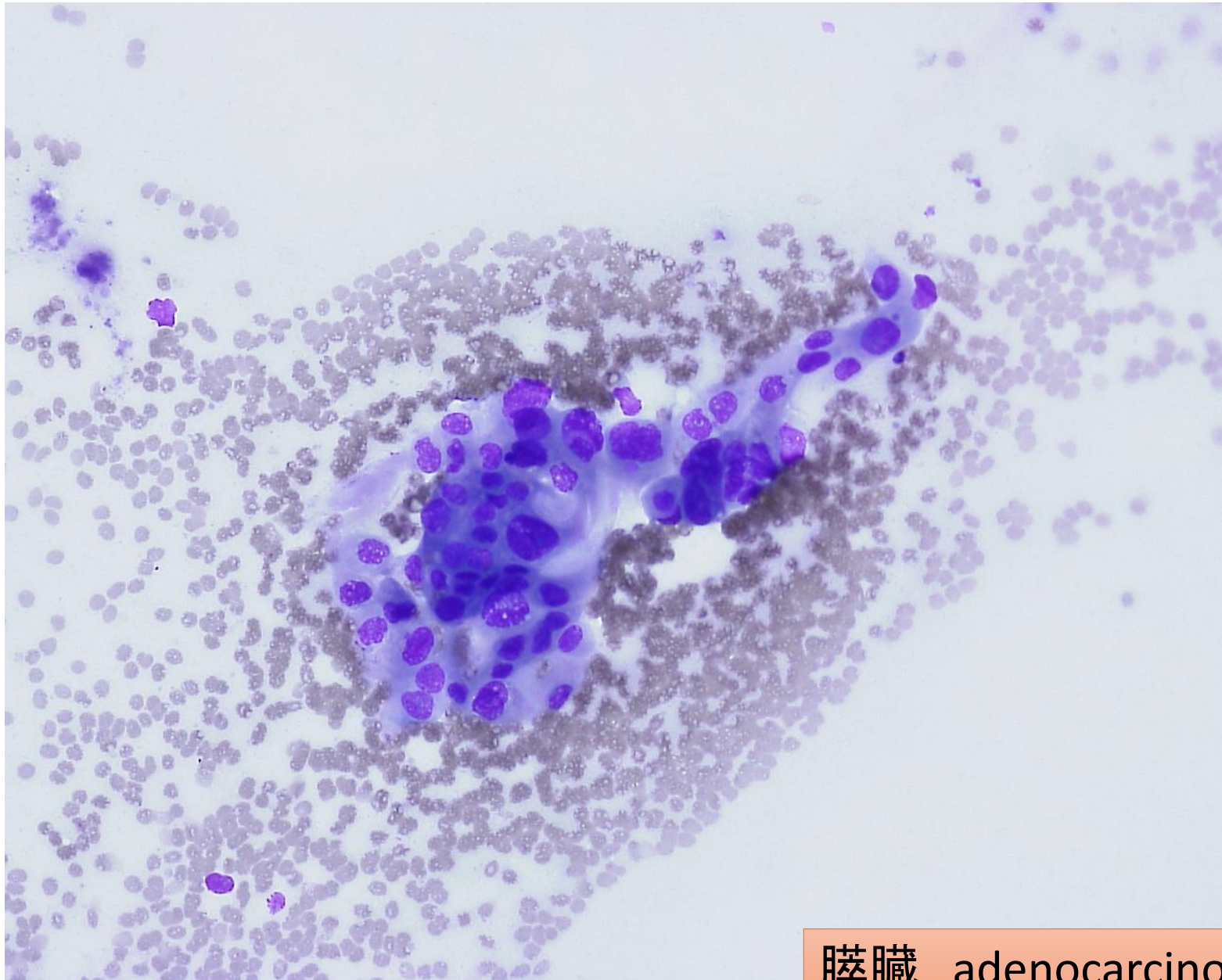




腺 腺癌 adenocarcinoma



腺癌 adenocarcinoma



胰臟 adenocarcinoma

ROSEの導入によって

- ・従来の臨床から提出された検体を検査するという立場から検査材料、検体採取をコントロールする役割を期待されている
- ・検体の質、量を検査側がコントロールすることにより、検査時間の短縮、再検査の減少が期待できる
- ・人手の確保、診療報酬がこれからの課題である



提案
医療チームの一員
として
臨床現場に食い込む
チャンス♪